

# 日本海海戦と作業船

三井造船株式会社  
理事

下垣慶紀  
船舶・艦艇事業本部  
艦船・特機総括部長



2009年11月末から3年に亘って年末にNHKスペシャルドラマとして放映された「坂の上の雲」が昨年末に終了した。原作の「坂の上の雲」は、日本海海戦時の聯合艦隊参謀の秋山真之、その兄の帝国陸軍の騎兵を率いた秋山好古、正岡子規の3名の伊予人を中心に明治初期から日露戦争の日本海海戦に至るまでを描いた司馬遼太郎の長編歴史小説である。

ドラマ最終回の「日本海海戦」ではロシアのバルチック艦隊を聯合艦隊が殲滅するという大勝利を描いたが、日本海海戦の勝利に作業船が大いに貢献したことはほとんど知られていない。日露戦争終結後の明治38年（1905年）10月23日に行なわれた東京湾凱旋観艦式には、「沖繩丸」というケーブル敷設船が165隻の軍艦以外で唯一参加していた。

「沖繩丸」は、日清戦争の勝利によって日本領となった台湾への軍用海底電信線敷設を目的に、明治28年（1895年）に日本で最初の本格的ケーブル敷設船として英国に発注、翌年4月に竣工した。

明治29年6月に日本に到着し、陸軍省臨時台湾電信建設部（部長：児玉源太郎少将）の指揮下に配属されて、台湾軍用電信線の敷設をおこなった。明治30年9月に1935kmの台湾軍用電信線の整備終了後に逓信省に移管されたが、日露戦争の開戦により海軍省の指揮下に入り、日露戦争開戦1ヶ月前に朝鮮半島の木浦と佐世保、馬山浦（鎮海湾）と対馬を結ぶ軍用電線を敷設する特別任務を与えられた。その後も、バルチック艦隊の来航に備えて、対馬海峡周辺に設置された「海軍望楼」を結ぶ海底電信線の敷設などに従事して、対馬海峡周辺に濃密な警戒網を敷設するなどの作業を行なっている。

有名な連合艦隊出撃電「敵艦隊見ユトノ警報ニ接シ聯合艦隊ハ直ニ出動コレヲ撃滅セントス本日天気晴朗ナレドモ波高シ」は、朝鮮半島鎮海湾に停泊していた旗艦「三笠」から発せられた。「三笠」が鎮海湾（馬山）で待機していた理由は、海底ケーブルを使用して有線による大本営との通信が行なえたことによる。

出撃電は、旗艦「三笠」から手渡しで「千鳥丸」、「台中丸」を経て、その後は海底ケーブルで松真軍用電報取扱所（釜山）を経由して、本土の特牛（こつとい、山口県下関市）へ、その後は陸線で、大本営海軍軍令部に伝えられた。当時では短時間の1時間20分にて届けられたとのことである。出動の前日には、バルチック艦隊が対馬を通過することを示唆する「艦隊随伴の石炭船が上海に入港」という情報が逆ルートで伝えられている。

日露戦争後、「沖繩丸」の船尾には戦中の功績を称え「菊花紋章」が取り付けられた。如何にその功績が大きかったかが窺い知れる。

明治期の日本人が、インフラ整備に掛けた情熱や、欧州の技術に頼るのではなく自分たちで出来るようにするという信念が、日露戦争の勝利に繋がり、また、今日の日本の繁栄の元になったと強く感じる。

今年は、首都高速開通50周年に当たるが、一方ではそれらの老朽化が問題となっている。首都高だけでなく、作業船を含め、いろいろな分野のインフラで同様の問題が指摘されている。先人たちが行なってきたインフラの整備が、日本の繁栄や日本人の生活の質の向上に果たした役割を思い起こし、老朽化したインフラの再整備に目を向けなければならない時代が差し迫っているように思う。